



## 戦後70年 練馬区平和祈念コンサートで 戦時体験の講演を実施

と き 平成27年8月7日(金) 午後6時～9時

と ころ 練馬文化センター(練馬1-17-37)

練馬区は、8月7日(金)午後6時から、練馬文化センターにおいて、平和祈念コンサートを開催。約1,300人が参加した。

戦後70年の節目となる今年、戦争の悲惨さ、平和の尊さを考えていただく機会として、戦争体験者の講演を初めて実施した。

区内在住の戦争体験者である小岩昌子さん(86歳)が、練馬区における戦時中の暮らしなどについて講演した。

参加者からは、「生の体験談であり、区内の知っている場所の話。身近なものとして戦争の恐ろしさが直接伝わった」、「平和の大切さを痛感した」、「若い人たちにも伝えていくことが必要」などの声が数多く寄せられた。



【戦争体験者の講演の様子】

### 【戦後70年 戦時体験講演(概要)】

講演者 区内在住 小岩昌子様

- ・練馬で生まれ育ち86年。戦時中は女学生であった。
- ・成増飛行場や中島飛行機製作所を狙った空襲が多く、練馬駅付近など近隣にも1トン爆弾が落とされた。爆弾が落とされた場所には、約10メートルの穴があいた。
- ・食料は配給制。量は少なく、常におなかをすいていた。配給の小さなケーキを9人家族で分けて食べた。「欲しがりません。勝つまでは」をいつも自分や兄弟に言い聞かせていた。
- ・母親たちが大変な暮らしだった。銃後の守りとして、竹やり訓練を行った。火災の際には、バケツリレーにより母親たちが中心になって消火活動をした。
- ・家族が出征する悲しさを後になって痛感した。
- ・女学生の勤労働員として、工場で風船爆弾を作製した。小岩様自身が後日調べたところ、1つの風船爆弾はアメリカまで到達し、死者がでた。自分は被害者でもあるが、加害者でもあることに気が付いた。

### (参考) 平和祈念コンサート プログラム

練馬区長あいさつ(前川耀男)

練馬区議会議長あいさつ(かしわざき強)

海外友好都市からの「平和へのメッセージ」

中国・北京市海淀区(かいでんく)、オーストラリア・イプスウィッチ市

戦時体験講演

コンサート